

2018年3月1日

第126回卒業礼拝

奨励



静岡英和女学院中学校・高等学校

校長 吉田 幸一

Dear Eiwa students

On behalf of all the staff of Shizuoka Eiwa Girls' Senior High School, I would like to extend our sincere congratulations on your graduating high school to all of you. I would also like to congratulate your families.

わたしは、その季節季節に、あなたたちの土地に、
秋の雨と春の雨を降らせる。あなたには穀物、
新しいぶどう酒、オリーブ油の収穫がある。

2017年度第126回の卒業礼拝の時を迎えることができますことを神様に感謝いたします。卒業生76名と保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。静岡英和女学院高等学校のご卒業誠にありがとうございます。

静岡英和女学院中学校・高等学校で学んだ6年間あるいは高等学校の3年間を思い起こす時、さまざまな思い出が脳裏をよぎるのではないのでしょうか。純白のカラーとカフスのある真新しい制服に身を包み、保護者の方とこの礼拝堂に入室した時、学年色の赤のプラカードを掲げ、赤、赤の大声援と喝采の中で、チームワークを発揮した体育祭、緊張と感動の入り混じったカナダ・スタディツアー、友だちの発表や演技に見入った文化祭、イエス様のご生誕を生徒全員が厳かにそして清らかに祝福した学校クリスマス礼拝などの思い出を思い浮かべると、思わず胸が熱くなるのではないのでしょうか。

本日の卒業礼拝に先立ち、2月13日には卒業記念礼拝が行われました。その際の生徒代表の言葉が印象深く心に残りました。「赤の学年の生徒たちは、ノリが良く、元気でとても個性的である」私たち教員も同じ思いがしました。時とし

て学年の杉浦先生、原田先生、伊藤先生や村田先生に心配をかける言動もありました。私も、カナダ・スタディツアーに同行させて頂き、短い期間の海外生活を共にしました。確かにノリが良く、元気で個性的な生徒たちだと感じました。

個性的とは人格面では personality、性格面では character、感情やセンスの面では originality といった言葉が浮かびます。ここでは individual で総称しましょうか。個性的 individual とは、他の人にはない個性や独特の雰囲気をもっていて、確固たる自分を持っているということです。他の人よりも目立ち、個性が光るキャラが立った only one の自分であるのですから、個性的である自分に自信をもって良いのではないのでしょうか。人は年齢を重ねるごとに、さまざまな環境に対応する中で、その個性のキャラがたっていた部分も少こしずつ削られ、丸くなっていくのが一般的です。しかし、卒業生の皆さんは、今のその個性を貫き通せるぐらいの強さがあるのではないのでしょうか。

考えてみれば、さまざまな環境に隷属するのではなく、環境を主人だと思ふことから、自己の個性もさらに磨くことがで

きるのだと思います。新たな環境に際しても微笑んで対応できるのではないのでしょうか。卒業生の皆さんは未来の試練や困難にさえも、持ち前の個性できっと乗り切ってくれると信じています。青春期の未完の個性はいわば青春時代の特権なのです。

そして、自分自身の存在価値は何なのかをさらに探求してほしいのです。存在価値すなわちレゾン・デートルを英語に直すと reason to be ですから、「であることとは何であるのか」。この命題は6年間あるは3年間毎朝の礼拝を守ってきた皆さんなら良く理解できると思うのですが、イザヤ書によれば「わたしの目には、あなたは価高く、貴く わたしはあなたを愛す」とあるように、神様から一人ひとりの尊き命を与えられた「その人であること」、神様が私たちの存在

(being) を愛し、私たちを自分の子どもとして愛していただき、私たちの存在そのものを神様が愛してくださる。ここに私たちの存在価値があることを礎として、卒業した後も、自己のレゾン・デートルをさらに追い求めてください。例えば、寒さが厳しくとも両手を暖めるかのように、皆さんは

愛情と慈しみの中で育てられ、本日の晴れの日を迎えられたことと思います。これからは、自分で判断することが多くなります。その時の暖炉の灯はいつも皆さんを温かく照らしてくれます。灯から受けることができる慈愛を、周囲の人や社会に向けた灯として照らしてくれることと信じています。青年期に形成された個性に、聖書の御言葉を重ねながら、世の光となって、“student の生徒” から “saint の聖徒” として社会に貢献してほしいと思います。“saint の聖徒” とは、聖はひじり、徒は走ると土を合わせた漢字です。徒は地面を踏みしめて歩くことを意味します。夏目漱石の小説『文鳥』には次のようなことが記されています。「文鳥は指の太いの驚いて白い翼を乱して籠の中を騒ぎ回るのみであった。二三度試した後にも、自分は気の毒になって、この芸だけは永久に断念してしまった。今の世にこんな事のできるものがあるかどうかはなはだ疑わしい。おそらく古代の聖徒(saint)の仕事だろう」

この学院を巣立つ 76 名の皆さんは、毎朝の礼拝で、神様に誠実に向き合ってきたかけがえのない経験を心の糧とし

て、鳩のように素直な気持ちで未来を切り拓いてほしいと思います

保護者の皆様の前に座る 76 名の卒業生は、6 年前あるいは 3 年前に比べて、立派に成長し、その姿はまぶしいばかりの輝きがあります。この輝きは、いつも温かい愛情を注いでくださった保護者の皆様への感謝の輝きにほかなりません。保護者の皆様のにっこりとうなずく姿と手を振ってくれることがあるからこそ安心し、健やかに成長できたのです。あの優しい笑顔を見れば、子どもたちは日光のように明るくなるのです。

1887 年、今から遡ること 131 年前、「日本女性の教養を高めるためには女子教育が必要である」とのことから建学された本学院で学んだ生徒は、女性としての社会貢献と「愛と奉仕」の実践の機会を与えられます。本学院で培った高い教養とキリスト教精神に基づいた他者を思いやる気持ちを携えて、社会の中で活躍してほしいと願っています。正に、女性としての存在意義レゾン・デートルと人間としてのあり方をあらためて見つめ直してほしいと思います。

この静岡の地にあつて、長い歴史を誇る女子教育の先駆的リーディングスクールとして歩み続けてきた本学院の社会からの期待と信頼とを、卒業生の皆さんは良く理解し、在学当時から後輩たちに継承していく絆の強さを示してくれました。このことは、本学院の誇りであり、誉れであります。これからは、卒業生の一人として、長い歴史を通じて培った校風を引き継いでいく“英和ミッショナリー”としての役割を担い、“英和ファミリー”として静岡のみならず世界を舞台に活躍してくれるものと期待しています。Eiwa の E は Elegance、I は Intelligence、W は Wisdom、そして A は Ability。これらの言葉を忘れず、これからの卒業生の皆様のご活躍を祈念しています。

お祈り致します。本日ここに第 126 回の卒業礼拝を行うことが出来ましたことを神様に感謝いたします。卒業生に言祝ぎをもって送るとともに、保護者の皆様のご労苦に思いを馳せる時、思わず胸が熱くなるのを覚えます。学び舎を巣立つ 76 名の女性たちの祝いの時を神様の御名とともに賛美いたします。卒業生 76 名の今後の人生の歩みを片時も離れるこ

となく御守りください。良き実りの時を迎えることができますようお導き願います。父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にもいつも豊かにありますように。

この祈りを主イエス・キリストの御名により、御前に御捧げ致します。アーメン